

教育と文化

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 232

人権とは何でしょう

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

私たちは、日常生活の中で『人権』という言葉聞いたことありません。『一人一人の人権を守ろう』、『人権侵害を許さない』など、人権という言葉が使われますが、その意味を皆さんはきちんと理解できているでしょうか。

人権とは、『誰もが生まれながらに持っている、人として幸せに生きる権利』です。このことは、『憲法で国民の基本的権利として保障されており、第14条で『すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分または門地により、政治的、経済的または社会的関係において、差別されない』と平等の原則がうたわれています。

20世紀、人類は二度の世界大戦を経験して、平和の大切さを学び、世界の人々が永遠の平和を願いました。しかし、その後も各国で地域紛争が起

こり、多くの犠牲者を出し続けています。これらの原因の多くには、人種や民族間の対立や偏見、差別の存在など、人権の問題が大きく関わっています。こうした中で人類は、『平和のないところには人権は存在しない』、『人権のないところには平和は存在しない』という教訓を得ました。21世紀は『人権の世紀』といわれていますが、これは過去の教訓を踏まえ、平和の基礎は人権の尊重にあるという考えに基づいたものです。

また、近年ではインターネットを悪用した人権侵害などの新たな問題も生まれています。本人にとっては何気ない言動でも、相手を傷つけてしまうことがあるかもしれません。今、私たち一人一人に求められるのは、日ごろから人権意識を持ち、自分を大切に思うように他人への思いやりを大切にすることではないでしょうか。

郷土の文化財

伊万里湾の歴史シリーズ⑥

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎(23)3186

伊万里津 (2)

古伊万里の積み出しで栄えた町・伊万里

今月は伊万里津と連なる伊万里の町がどのような発展を遂げてきたかを紹介します。

伊万里津で初めて『伊万里商人』が現れたとされるのは、1642年(寛永19年)の頃でした。この商人は東嶋徳左衛門という人物で、酒井田祐右衛門の赤絵創始に関わったといわれています。彼の出現の後、数多くの陶器商人(商家)が伊万里に生まれました。またこのころは、全国から古伊万里を求めて多くの商人が伊万里にやってきて、買い付けを行っていました。こうした磁器の売買・流通により伊万里は発展し、1824年(文政7年)の文書によれば『千軒在所』と呼ばれるほど数多くの白壁土蔵が軒を連ね、繁栄するようになりま

した。

現在、伊万里のまちなかには当時の様子をそのまま伝える白壁土蔵は数えるほどしか残っていませんが、町の区割りや古い建物の基礎など、その痕跡をいたるところでうかがい知ることがができます。



→ 現存する白壁土蔵(手前から2軒目と4軒目が当時のもの)